

被災地での感染症予防や認知症予防・改善に有効であると、近年注目されているのが『歯科保健』です。災害時にインフルエンザや誤嚥性肺炎の予防に「歯ブラシ1本」が大変効果的でした。

歯磨剤を使わなくても歯ブラシ1本あれば、歯磨剤をつけない「空みがき」で十分口腔の清掃ができるのです。口腔の衛生状態がよく、自分の歯（又は、適正な入れ歯）があることによって、「よく噛んで、美味しく食べること」ができ、認知症予防・改善がみられる。今まで歩けなかった人がしっかり歩けるようになったというケースもあります。だからこそ、年をとってからではなく、小中学校の学童期からの「歯科保健教育」が大変重要なのは言うまでもありません。むし歯や病気になってからの対症療法ではなく、予防的視点での健康教育、そして健康行動の実践化を図りたいものです。

さて、本校の今年度、定期健康診断（歯科）結果は以下のとおりでした。

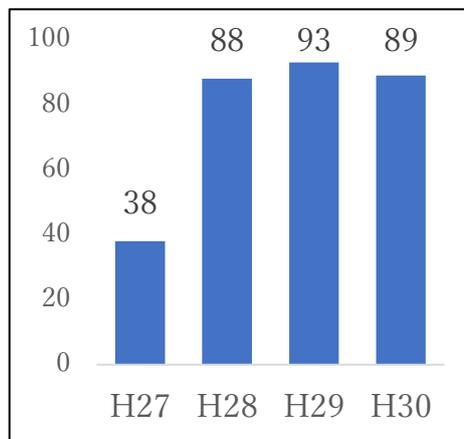
- 未処置のむし歯（永久歯）がある者；44人（全体の約9%）
- CO（要観察歯；もうすぐむし歯になりそうな歯）がある者；53人（全体の約11%）
- 歯垢（プラーク）の付着がある者；68人（全体の約15%）
- 歯肉に炎症のある者（GO、G）；33人（全体の約7%）



学年別にみると、昨年度に引き続き現3年生に「永久歯のむし歯未処置者」が多く、是非とも受験期を迎える前、かつ、医療費助成を受けられる中学生のうちに、歯科専門医による必要な指導や治療を終わらせてほしいと切に願っています。

＜図1；永久歯むし歯治療状況（%）推移＞

なお、小学校時代から多くのむし歯を放置している場合、虐待のケースとして扱われることもあります。



右のグラフ（図1）から分かるように、おかげさまで本校ではここ数年、むし歯を治療する者の割合は、年々増加傾向にあります。100%にはなっていません。

また、4年前より「給食後の歯みがき」を推奨していますが、実際に歯ブラシを持参して歯みがきをしている生徒は、キャンペーン期間を除くとほとんどゼロで、残念でなりません。給食後すぐでなくても5時間目や6時間目終了後でもいいのです。とにかく、食後のなるべく早い時間にブラッシングをする、「食べたらみがく！を実行する習慣」を身につけることこそ、生涯の心身の健康に繋がるということを子供たちに理解してほしいし、実践してほしいと思います。

そこで、春の歯科検診結果CO、GO、Gの所見があり、専門医を受診していない生徒を対象として学期末に個別指導を行う予定です（該当者には個別にお知らせします）。

これからも歯科保健についての指導を継続してまいります。ご家庭でもご理解・ご指導のほど、どうぞよろしくお願い致します。